

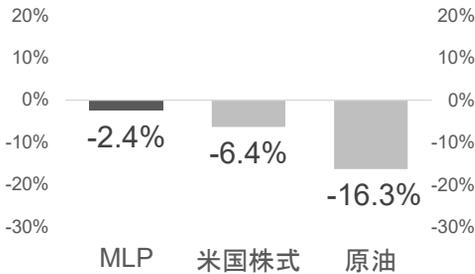
## ■ 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

7月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+1.1%と2ヵ月連続での上昇となりました。

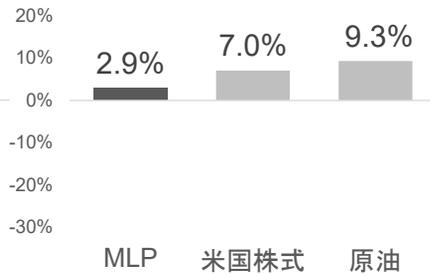
上旬は、MLPに関する目立った個別材料があまりない中、原油価格や米国株式市場の堅調な推移などに後押しされ上昇基調となり、S&P MLP 指数は、12日に年初来高値を付けました。下旬にかけては、一部MLPの決算内容が嫌気され弱含む場面がみられたものの、総じて底堅い推移となりました。

## ■ 過去3カ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)

2019年5月



2019年6月



2019年7月



## ■ 主要指標の動き

MLP: S&amp;P MLP 指数、米国株式: S&amp;P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/7/31	2019/6/30	2019/4/30	2018/12/31	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,832.50	4,778.10	4,758.77	4,047.51	1.1%	1.5%	19.4%
プライスリターン	1,444.65	1,439.21	1,450.92	1,268.20	0.4%	-0.4%	13.9%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	5,993.17	5,908.25	5,893.81	4,984.22	1.4%	1.7%	20.2%
プライスリターン	2,980.38	2,941.76	2,945.83	2,506.85	1.3%	1.2%	18.9%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	841.26	856.53	882.13	757.14	-1.8%	-4.6%	11.1%
プライスリターン	462.47	471.28	489.38	424.07	-1.9%	-5.5%	9.1%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,408.21	1,389.63	1,373.90	1,190.35	1.3%	2.5%	18.3%
プライスリターン	334.13	330.23	329.29	288.67	1.2%	1.5%	15.7%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofAメリルリンチ・米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,365.85	1,358.89	1,343.45	1,233.61	0.5%	1.7%	10.7%
プライスリターン	76.58	76.58	76.51	71.75	-0.0%	0.1%	6.7%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	2.01%	2.00%	2.50%	2.68%	0.01	-0.49	-0.67
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	58.58	58.47	63.91	45.41	0.2%	-8.3%	29.0%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	2.23	2.31	2.58	2.94	-3.2%	-13.3%	-24.0%
<b>米ドル(対円)</b>							
	108.78	107.85	111.42	109.69	0.9%	-2.4%	-0.8%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## ■当月の出来事いろいろ

- 前月末に開催された米中首脳会談において、通商協議の再開と対中制裁関税第4弾の先送りが合意されたことを受け、米中の貿易摩擦についての懸念が和らぐ中、金融市場では、米国をはじめとする先進国の金融政策に注目が集まる状況となった。
- 10日にFRB(米連邦準備制度理事会)のパウエル議長が、月内の利下げを示唆したことを受け、市場では、利下げ期待が一段と強まり、米国株式市場の上昇を後押しした。このような中、同日発表された米週間統計において原油在庫が予想以上に減少したことなどをを受けて、WTI原油先物価格が前日比+4.5%と大きく上昇し、1バレル=60米ドル台を回復した。
- その後、原油価格については、16日に、ポンペオ米国務長官が、イランは核開発について米国と交渉する準備があると発言したこと、17日に発表された米週間統計においてガソリン在庫が予想に反して増加したことなどが材料視され下落基調となった。WTI原油先物価格は、18日までに4営業日連続で下落し、55.3米ドルとなった。一方、米国株式市場については利下げ期待に加え、ハイテク関連を中心に好決算が確認されたことが、株価の押し上げ要因となり、下旬にかけて、S&P500種指数およびナスダック総合指数が、月中に付けた史上最高値を更新した。
- 30・31日のFOMC(米連邦公開市場委員会)では、10年7ヵ月ぶりとなる利下げ(0.25%ポイント)のほか、9月末の終了を予定していたFRBのバランスシートの縮小を7月末に前倒して終了することが決定された。

## ■今後の注目点

- 目先は、MLPの決算発表内容が注目される。

## ■MLPの分配金動向

決算シーズンの際、MLP各社は決算発表に先立ち、その期の分配金を発表するのが一般的です。7月から公表が始まっているMLPの2019年4-6月期の分配金動向は、2019年7月31日現在で、指数構成銘柄(40銘柄、2019年6月末時点)のうち、**35社の発表が終了しており、前期比での増配は15社、横ばいが20社、減配が0社**となっています。

＜S&P MLP 指数の上位構成銘柄\*と分配金額の動向＞

2019年7月31日現在

\*上位構成銘柄は、2019年6月末時点

	銘柄名	業種 (事業分類)	2019年1-3月期		2019年4-6月期	
			分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前期比)	分配伸び率 (前期比)
1	エンタープライズ・プロダクツ・パートナーズ	石油・ガス 貯蔵・輸送 (川中)	0.6%	2.3%	0.6%	2.3%
2	エナジー・トランスファー		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3	マゼラン・ミッドストリーム・パートナーズ		0.8%	7.2%	0.7%	5.7%
4	ブレーンズ・オール・アメリカン・パイプライン		20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
5	MPLX		1.5%	6.5%	1.5%	6.4%
6	ウエスタン・ミッドストリーム・パートナーズ		1.2%	7.3%	1.3%	6.1%
7	バックアイ・パートナーズ		0.0%	-40.6%	未発表	
8	エンリンク・ミッドストリーム		1.5%	6.1%	未発表	
9	ブレーンズGPホールディングス		20.0%	20.0%	0.0%	20.0%
10	アンデパー・ロジスティクス		0.0%	1.5%	未発表	

※業種は、GICS(世界産業分類基準)に基づく、事業分類は、日興アセットマネジメントによるもの

※2019年4-6月期の分配伸び率は、2019年7月31日時点で確認できたもの

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

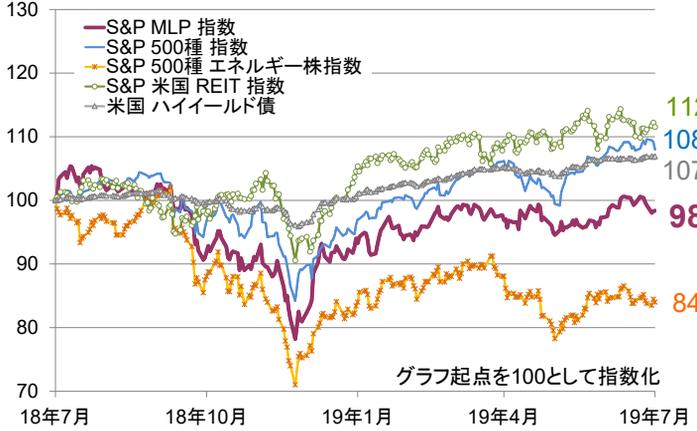
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

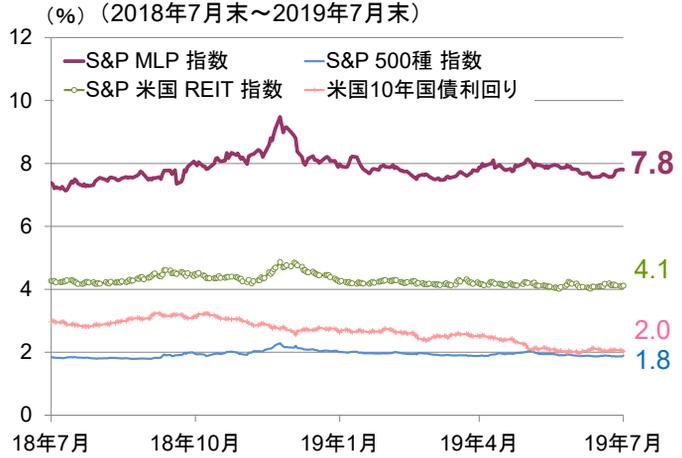
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

## ■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2018年7月末～2019年7月末)



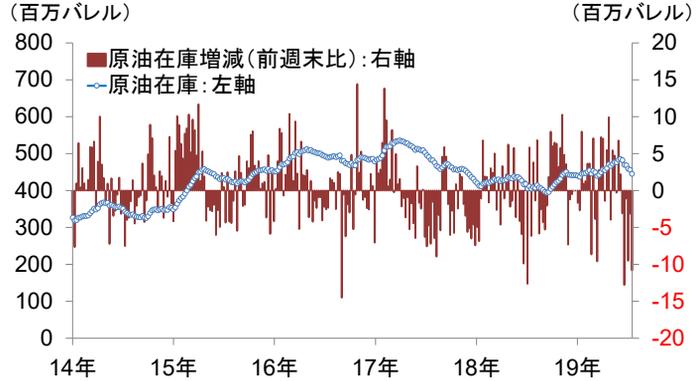
## ■各資産の利回り



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

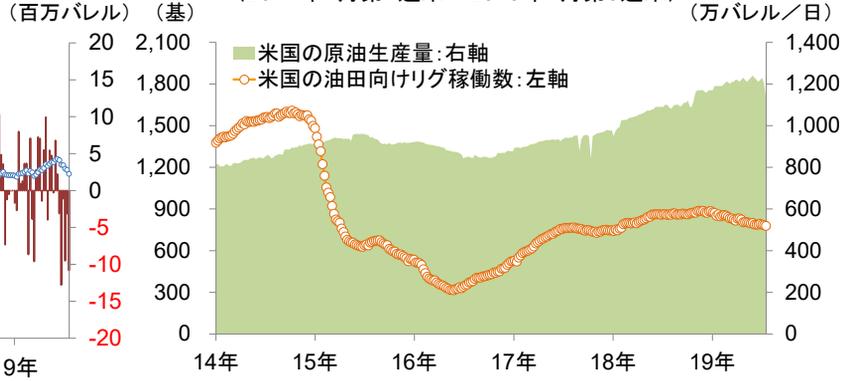
## ■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年7月第3週末)



## ■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

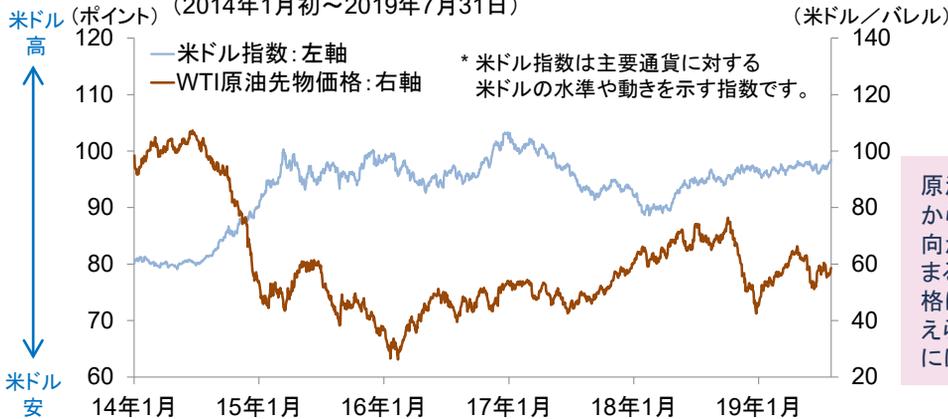
(2014年1月第1週末～2019年7月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

## ■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2019年7月31日)



\* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。